様式第１号

# 会　議　録

| | |
|---|---|
| 会　議　の　名　称 | 令和８年度第１回所沢市上下水道事業運営審議会 |
| 開　催　日　時 | 令和８年１１月５日（木）<br>午前１０時００分から午前１１時４０分まで |
| 開　催　場　所 | 上下水道局庁舎３階　大会議室 |
| 出 席 者 の 氏 名 | 越阪部　眞、亀屋　隆志、近藤　孝夫、瀬能　幸則、田中　弘城<br>（５０音順） |
| 欠 席 者 の 氏 名 | 小澤　峰子、落合　未優、宮越　美香 |
| 説明者の職・氏名 | 下水道維持課副主幹　　小畑　裕司<br>経営課主査　　越阪部　那佳子<br>経営課主任　　武市　梓 |
| 議　題 | (1)令和7年度所沢市上下水道局施策事業の進捗状況について<br>(2)その他 |
| 会　議　資　料 | ・令和８年度第１回所沢市上下水道事業運営審議会次第<br>・資料１　令和７年度所沢市上下水道局施策事業の進捗状況について（水道事業）<br>・資料２　令和７年度所沢市上下水道局施策事業の進捗状況について（下水道事業）<br>・水の官民連携（ウォーターPPP）について<br>・参考資料１　令和７年度水道事業 経営指標一覧<br>・参考資料２　令和７年度下水道事業 経営指標一覧<br>・参考資料３　所沢市水道事業経営計画における施策事業の進捗状況<br>・参考資料４　所沢市下水道事業経営計画における施策事業の進捗状況 |
| 担　当　部　課　名 | 上下水道事業管理者　　鈴木　哲也<br>上下水道局長　　新井　猛<br>上下水道局次長　　加藤　孝雄<br>水道建設担当参事　　古澤　祐晴<br>総務課長　　中林　正太<br>経営課長　　中澤　宏和<br>窓口サービス課長　　村中　慎児<br>給水管理課長　　坂野　浩明<br>給水管理課主幹　　田村　真一<br>下水道整備課長　　森田　敏幸<br>下水道維持課長　　新井　伸二<br>下水道維持課副主幹　　小畑　裕司<br><br>（事務局）<br>経営課副主幹　　宮坂　利幸<br>経営課主査　　越阪部　那佳子 |

| | |
|---|---|
| | 経営課主任　　武市　梓<br><br>電話　０４（２９２１）１０８７ |

様式第２号

| 発言者 | 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
|---|---|
| | １．開会（事務局により進行）<br><br>２．あいさつ<br>・開会あいさつ（亀屋会長）<br>・上下水道局職員自己紹介<br>・会議資料の確認<br>・出席状況の確認・会議の成立の報告<br>・諮問書の受け渡し<br><br>３．議事の前の手続き（亀屋会長により進行）<br>・会議の公開：原則公開<br>・会議録の作成方法：委員名記載の要約方式<br>（公開時は委員名を記載せず「委員」とする）<br>・会議録の確定方法：会長の承認により確定<br>・傍聴希望者の確認（希望者０名）<br><br>４．議事（亀屋会長により進行） |
| 亀屋会長 | 議事（１）令和７年度 所沢市上下水道局施策事業の進捗状況について、説明していただきたい。 |
| 経営課主査 | ※資料１（１～５ページ）に基づき、令和７年度所沢市上下水道局施策事業（水道事業）の進捗状況について説明。<br><br>（以下、質疑応答） |
| 委員 | 老朽化に伴う水道管の漏水事故は年間どのくらいあるか。また、漏水事故により、給水が止まることはあるか。 |
| 給水管理課長 | 漏水事故は年間約２００件発生しているが、大多数は個人が所有する給水管の漏水であり、市が管理している本管の漏水は１０件程度である。また、漏水による部分的な断水はあるものの、大規模な断水は発生していない。 |
| 委員 | 給水を止めないためにも、しっかりと老朽化対策を進めていただきたい。 |
| 委員 | 出前教室実施事業は、若い世代に市の活動を意識づけできる良い取組みである。令和６年度及び７年度の実績が２１校と変わっていないが、何か |

| | |
|---|---|
| | 理由はあるのか。 |
| 総務課長 | 公立の３２校すべてに声かけしているが、学校側の都合もあり、応募いただいたのが２１校となった。今後も学校のニーズを把握しながら増えるように努めていきたい。 |
| 委員 | どのような実験を行っているのか。 |
| 総務課長 | 主に下水処理に関する実験で、下水管内での汚水の流れ方が分かる実験を行っている。<br><br>（質疑応答はここまで） |
| 経営課主査 | ※資料１（６～１２ページ）に基づき、令和７年度水道事業の経営状況について説明。<br><br>（以下、質疑応答） |
| 委員 | 年度末現金残高について、増加の要因として未払金の増加が挙げられているが、令和７年度はいくらだったのか。 |
| 経営課長 | 令和７年度は約１９億８千万円であった。未払金は毎年発生しているが、令和７年度は第一浄水場の電気設備更新工事により、前年度に比べて約１３億５千万円増加した。 |
| 委員 | 参考資料１によると、経常収支比率や料金回収率は、令和８年度の料金改定により一時的に改善するものの、徐々に悪化する見通しである。また、給水原価も物価高騰等により値上がりしていく状況にある。人口や需要が減少する中で設備を維持していかなければならず、費用をどう削減していくのか、何か改善策はあるか。 |
| 経営課長 | 広告収入等により自主財源を増やす努力はしているものの、大きな収入にはならない。収入を大きく増やすには料金改定が考えられるが、料金改定も簡単には行えないため、支出を見直して費用を抑制することが必要と考えている。例えば、浄水場や水道管の更新の際に、人口規模に合わせてダウンサイジングすることや、AI による劣化診断等を活用して水道管の更新周期を見直し、使える管を少しでも長く使うことで、費用の抑制を図っていきたい。<br><br>（質疑応答はここまで） |

| | |
|---|---|
| 亀屋会長 | 続いて、下水道事業の進捗状況について説明していただきたい。 |
| 経営課主任 | ※資料２（１～５ページ）に基づき、令和７年度所沢市上下水道局施策事業（下水道事業）の進捗状況について説明。<br><br>（以下、質疑応答） |
| 委員 | 下水道地震対策事業について、令和５年度から７年度までの耐震化工事の実績しか記載がないが、目標値はあるのか。 |
| 上下水道局次長 | 耐震化工事は毎年度、耐震診断を行い、対策箇所を見つけながら進めているため、計画に年度ごとの目標値は設定していない。長期計画における耐震診断の対象は５５キロとなっている。 |
| 委員 | 耐震診断は令和７年度までにどのくらい終わっているのか。 |
| 下水道維持課長 | 耐震診断は５５キロすべて終わっており、その結果に基づき、必要な工事の詳細設計まで完了している。今後は優先順位に応じて令和８・９年度で工事を進める予定である。 |
| 委員 | 詳細設計まで終わっているのであれば、令和８・９年度で耐震化工事を終わらせられるのかが評価のポイントとなる。実施できる見込みで良いか。 |
| 下水道維持課長 | 令和９年度ですべて完了する訳ではないが、完了しないところは、上下水道一体の「所沢市上下水道耐震化計画（計画期間：令和７年度～令和１１年度）」における対象範囲と重複しているため、令和１０年度以降はその計画に基づき実施していく予定である。 |
| 委員 | 診断結果は優先度のランクがあると思うが、その仕分けは済んでいるのか。 |
| 下水道維持課長 | 診断結果に基づき、優先順位をつけて進める計画を立てている。 |
| 委員 | 実績値だけでは進捗がどれくらい進んでいるのか見えにくいため、次回の評価の際には指標を工夫していただきたい。 |
| 上下水道局長 | 今回は実績値だけの記載で進捗状況が分かりにくいが、実際には計画を立てて進めているため、次回から資料を工夫する。<br><br>（質疑応答はここまで） |

| | |
|---|---|
| 経営課主任 | ※資料２（６～１２ページ）に基づき、令和７年度下水道事業の経営状況について説明。 |
| 下水道維持課副主幹 | ※資料「水の官民連携（ウォーターPPP）について」に基づき、ウォーターPPP の概要について説明。 |
| | （以下、質疑応答） |
| 委員 | 年度末現金残高について、増加の要因として未払金の増加が挙げられているが、令和７年度の未払金はいくらだったのか。 |
| 経営課長 | 令和７年度は約１０億６千万円で、前年度に比べて約１億５千万円増加した。 |
| 委員 | ウォーターPPP について、管理・更新一体マネジメント方式を採用するとのことであるが、契約期間や民間事業者への委託範囲について改めて説明してほしい。また、大きな事業転換であると思うが、引継ぎはどのように行うのか。 |
| 下水道維持課長 | 契約期間は令和１０年度から令和１９年度までの１０年間で、ストックマネジメント事業及びその他の維持管理業務を委託範囲とする。また、民間事業者との契約締結の後、３～４か月間で引継ぎを行う予定である。 |
| 委員 | 事業の進捗管理は市が行うのか。 |
| 下水道維持課長 | 事業者によるセルフモニタリングに加え、市としても進捗管理を行う。事業内容は事業者に委ねることとなるが、市が承認をしたうえで実施していただく仕組みとなっている。 |
| 委員 | 参考資料４に令和１０年度以降の経営指標が示されているが、ウォーターPPP の費用は盛り込まれているのか。 |
| 経営課長 | 計画策定時には、ウォーターPPP の導入が未定であったため、盛り込まれていないが、導入可能性調査により直営よりも費用の削減が見込まれているため、費用が大きく変わることは想定していない。 |
| 委員 | 市民にとっては大きな事業転換に見え、また使用料が上がるのではないかと不安に感じるかもしれない。市民に対してどのように周知する予定か。 |
| 下水道維持課長 | 実施方針等は随時ホームページにて公開する。 |

| | |
|---|---|
| 上下水道局長 | これまでも、市議会に対しては予算の関係から説明をしてきたところであり、今後も予算の関係で説明をしていく。ウォーターPPP の導入そのものによる使用料改定の可能性は低いと考えており、また、すでに委託で行っている維持管理業務を中心に、包括的に委託化するものであるため、市民への影響は少ないと考えていることから、市民向けの説明会などは検討していない。<br><br>（質疑応答はここまで） |
| 亀屋会長 | 続いて、議事（２）に移る。本日の議題以外にも、何か気づいた点等はあるか。<br><br>（一同発言なし） |
| 亀屋会長 | 予定した議事は全て終了したので、進行を事務局にお返しする。<br><br>５．閉会（事務局により進行） |
| 越阪部副会長 | 閉会挨拶 |